

平成24年2月26日の中日新聞に、『新都市病院』が紹介されました。

静岡の病院

つなごう医療

〈29〉

和雄院長(左)。入院日数は半分程度で済む。関節鏡手術を基本とした整形外科では、スポーツ外傷や小切開低侵襲人工関節手術などにも積極的に取り組んでおり、リハビリセンターと連携する。このレーザー装置は県内でいち早く導入した。重症者には最も適した手術」と鈴木院長。PVPと前立腺がんの腹腔鏡手術は昨年からの保険適応になった。手術室は、家族が見守れるモニター室と手術室を

傷は小さく、痛みも少ないし回復も早い」と鈴木

は、患者一人一人の症状や状態を評価した治療プログラムを組んだ運動療法を実践している。PVPは特殊なレーザーで腫れた前立腺を吹き飛ばす。出血はほとんどなく、三泊四日の入院となる。このレーザー装置は県内でいち早く導入した。重症者には最も適した手術」と鈴木院長。PVPと前立腺がんの腹腔鏡手術は昨年からの保険適応になった。手術室は、家族が見守れるモニター室と手術室を

看護師らの技術に加えて、充実した医療機器で成り立っている。ただ、医療は日々進歩している。慢心せずアンテナを高くして、精度の高い、安全な医療を提供していきたい。

新都市病院



モニターを見ながら、前立腺がんの腹腔鏡手術をする医師ら＝磐田市中泉で



新都市病院 医療法人明徳会が2006年に19床の有床診療所「新都市クリニック」として開院。10年に50床の急性期型病院「新都市病院」に拡張▽内科、外科、眼科、整形外科など6科▽常勤医12人、非常勤医6人▽磐田市中泉▽電0538(34)0150

結んだ「公開手術」が得意。鈴木院長は「医師は丁寧な手術を心掛けるし、家族は安心していい」と相乗効果につなげている。百二十人まで受け入れ可能な血液透析センターも完備。日本透析医学会の認定専門医三人が中心となり、合併症に対応するため各科の医師らとチーム医療を手掛ける。予防健診センターも備え、生活習慣病予防健診に加え、人間ドックにも積極的に取り組んでいる。(赤野嘉寿)

最新技術で体に優しく

JR磐田駅から徒歩三分に立地する磐田市内南部の地域医療を支える中核病院。「最新の医療技術を駆使して、からだに優しい医療を基本理念に、内視鏡やレーザー装置などを使い、傷が小さく、痛みが少ない手術に力を入れる。リハビリテーションセンターも備え、患者の一日も早い社会復帰をサポートしている。

一年間にこなす手術約千四百件から眼科手術と透視シャント手術を除くと五百十件。そのうち整形外科の関節鏡手術をはじめ、泌尿器科や外科の腹腔鏡手術、前立腺肥大症へのレーザー内視鏡手術(PVP)が五割余を占める。

腹部や関節に数センチの穴を数力所開けて行う内視鏡手術は「売り」の一つ。「開腹手術に比べて

この連載は、隔週の日曜日に掲載します。過去の記事は「中日新聞 医療サイト」で読めます。